

吉良上野介は名君ではない



中島康夫

近年ちまたにテレビ番組、出版物、観光パンフレットなどで「吉良名君説」が取り上げられている。が、この評判は、旧吉良町の旧町役場とその関係者によって、意図的に創作された策略である。その証拠に「名君の証拠」など一つも存在するわけではない。もし、江戸時代に示された「吉良名君」を証明する史料が存在するなら、それを示せばよいことである。学問的に示せば、中央義士会も忠臣蔵倶楽部も名君としてみとめるので、一日も早く立証すべきである。そもそも「名君説」を唱える作家も編集長も何の証拠も持ち合わせているわけではない。唯、町で伝わっているだけでは証明にはならない。「吉良上野介を弁護する」などの著者は、学問的知識は薄学阿世である。

旧吉良町の役場・寺院関係者も「黄金堤」も「富好新田」も上野介が手掛けたものでないことを知っながら、堤を作ったことにして観光事業を行っている。立派な観光偽装である。百歩譲って仮に堤を作ったとしても、土手を作ったくらいで名君とは呆れた話ではないか。

吉良上野介は稀代の悪人であり、それを証明する江戸時代に書かれた史料は、近年でもぞくぞくと発見されており、学問的、歴史的な一級史料は多数存在する。「毎年の大名いびり」(秋田文書館)、「上杉綱勝毒殺容疑」(米沢市立図書館)、「天皇崩御画策」(実紀)、「堀部金丸私記」、「系図附録」、「陽和院書状」等々、一級史料が存在するも、吉良上野介を擁護する著者たちは、これらの古文書に反論どころか触りもしないのはなぜか。ただし、何も知らない現在の旧吉良町の町民の方々はなぜか、良い人がほとんどである。また、赤穂市と現西尾市が仲良くすることはよいことなので、大いに賛成するが、三百十年前の領主(吉良)は残念ながら、歴とした前代未聞の悪人であったことは事実である。

吉良上野介が討たれたとき、関白は「御喜悅」と喜び、天皇は「これぞ世の中も良くなる」と言ったとか。

善良な人間が亡くなれば「気の毒」と思うものではないか。それなのに、平成26年になって、西尾市、米沢市、諏訪市、墨田区の4市区で「吉良上野介サミット」なる会合を開催したとか。おいおい少し考えて見てよ、吉良義周を預かった諏訪家は、大石内蔵助とは親戚の間柄だよ。米沢だって上野介より散々な被害を受けていることもあってもサミットに同調するかねえ。その被害の影響も受けて、名君上杉鷹山が誕生したのではないか。名君とは、上杉鷹山のような方をいうのである。

大体、旗本の身分で「名君」とは、少し無理があるように思うが。

NPO 法人

忠臣蔵倶楽部会報

発行人

〒135-0047

東京都江東区富岡1-17-1-403

忠臣蔵倶楽部

TEL&FAX 03-3630-1927

編集者 中島康夫

ホームページ

忠臣蔵会館

出版・校正・協力

テレビ製作協力

講演・史跡案内

<http://www.chuushingura.net/>

新大石内蔵助の生涯
残部ございます

定価 1800円

(消費税含)

送料 350円

080-8908-1633

静岡に眠っていた赤穂義士史料

赤穂浪士村松喜兵衛遺書（清水市 牧野金正家文書）

宗之丞之良由存得共
 以御勇健可被成御座与弥重
 奉存候然者今度之儀從
 去年催し申候間此間ニ者度々
 の可れ度所存出來候年去三十卷年
 餘り貴公様方大事之物を御
 預置被成候是を無疵尔て
 返進可仕与存齒を可ミ
 涙をこ本し退不申候其上
 粹三大夫今年二十六ニ罷成
 申候殊之外けなげ者尔て中々
 少死を恐不申候間一人満足
 仕父子一所ニ枕をならへ申候
 誠ニ三十年餘り之御厚恩
 雖忘奉存候随分大切ニ所持
 仕候間力ニ及申候たけハ相守統
 を付不申只今返進仕候御
 請取可被下候堀中氏江御參會
 被申候ハ、右之段御申上頼入申候由
 書置申候今生之爲御暇乞
 如斯御座候別紙ニ末期之一句
 書付進上仕候此通ニ認頭巾ニ
 縫付相果申候以上
 今月今日

命丹毛加えぬ飛と川越失なハ、
 逃可くれても寔をの可れん

【翻字】

寒氣之節御座候得共

弥御勇健可被成御座与弥重

奉存候然者今度之儀從

去年催し申候間此間ニ者度々

の可れ度所存出來候年去三十卷年

餘り貴公様方大事之物を御

預置被成候是を無疵尔て

返進可仕与存齒を可ミ

涙をこ本し退不申候其上

粹三大夫今年二十六ニ罷成

申候殊之外けなげ者尔て中々

少死を恐不申候間一人満足

仕父子一所ニ枕をならへ申候

誠ニ三十年餘り之御厚恩

雖忘奉存候随分大切ニ所持

仕候間力ニ及申候たけハ相守統

を付不申只今返進仕候御

請取可被下候堀中氏江御參會

被申候ハ、右之段御申上頼入申候由

書置申候今生之爲御暇乞

如斯御座候別紙ニ末期之一句

書付進上仕候此通ニ認頭巾ニ

縫付相果申候以上

今月今日

命丹毛加えぬ飛と川越失なハ、
逃可くれても寔をの可れん

「続・駿河の古文書」より、中村典夫訳文

解説

中島康夫

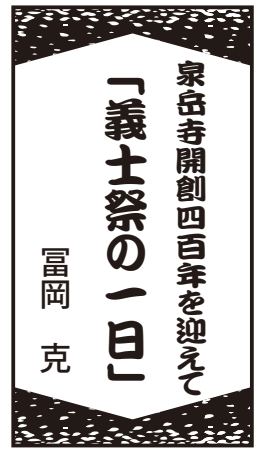
赤穂義士の一人村松喜兵衛が吉良邸討入り当日、元禄15年12月14日に身内の人物宛に送ったと思われる書状（暇乞い状）である。

義士の内、村松親子の書状は、極端に少なく、私自身活字になったのを一通知っているのみである。本書状は、毎月富士市で催されている「赤穂義士勉強会」の席上、同市の藤本和弘氏より提示されたものである。地方に埋もれていた一通と見た。

書状は、受け取り方の迷惑も考え、自署も宛名もなく、日付も「今月今日」とあるが、討入り当日と考えられる。文中、借り物の返却を示しているが、これは、村松家が代々、和算術の家系であったので「そろばん」か「和算機」と考えられる。また、文中の「堀中氏」は実家の「堀江氏」ではなかろうか。「貴公様」とあるのは、妹の嫁ぎ先の「大和屋」ではないかと思われる。

元々、平成11年発行の駿河古文書会「続・駿河の古文書」の一節である。今後、これを機会に商人から武士になった村松喜兵衛の研究が進むことを期待する。

地方には、今度のように眠っている史料がまだまだあるように思う。



十二月十四日は、赤穂義士が本懐を遂げた日として、泉岳寺では毎年盛大な義士祭が行われています。特に昨年は、開創四〇〇年を迎え、赤穂義士が休息した書院の落慶法要が営まれ、特別の義士祭となりました。泉岳寺の当日は、朝のお勤め、寺庭夫人を中心に寺職員全員と本日の行事全般の打ち合わせ、法類様の接遇、巻き物、お斎、仲見世、出店、参拝者の誘導そのほか諸事万端有り、で大忙しとなります。

午前十一時には、小坂ご住職以下僧侶十数人のあとに続く、義士子孫と中央義士会代表（今回は富岡）が墓所へ行き、浅野内匠頭の墓前祭が行われました。引き続き本堂にて東阿部流による献茶式が正装のご婦人三十人ほどにより奠茶供花を行い、再度法要が厳修されました。午後二時からは中央義士会による、今年で三十二年目の赤穂義士討入りを記念して、赤穂義士追憶の集いが催されました。中央義士会は、明治四十三年より泉岳寺において赤穂義士追憶の集いを開催してきました。今回で一〇四年目となりました。

今回は、日曜日ということもあって、八〇名を超える多くの方に参列していただきました。午後二時から本堂において赤穂義士の法要が行われ、(写真1)その後講師神田松之丞氏の大熱演(写真2)、義士銘々伝の内、勝田新左衛門武堯の一席の読み切りが参会者に感銘を与えました。次いで、中島代表の新大石内蔵助の生涯より天野弥五右衛門の講演と、史実の忠臣蔵のお話がありました。そして、第三部、ご子孫の紹介、忠臣蔵検定試験合格者の認定証授与(写真3)、遠方からの参加者の紹介(北海道、赤穂、静岡、茨城、群馬)今年の大石内蔵助の選定(EDD照明でノーベル賞受賞の三人になりました)、お楽しみ抽選会等盛り沢山のプログラムで、今年も盛会裡に幕を閉じました。なお、昨年を大幅に上回る方の参加があり、皆様には不手際によりご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。

また、十二月十三日、十四日には、同時に両国松坂公園付近におきまして、両国町内会による元禄市が開催されました(写真4)。中央義士会も毎年参加しており、今回も忠臣蔵関係専門の図書販売を行い(写真5)、多くの方にご利用していただきました。今年の十二月も同様に本などの販売を行いますので、皆様のお越しをお待ちしております。



写真2 神田松之丞氏の熱演



写真1 本堂での法要



写真5 元禄市での本販売



写真4 両国元禄市



写真3 検定試験合格証の授与



旧吉良邸裏門横の角—この辺に辻番があった

平成二十七年二月一日に、恒例の、吉良邸跡から泉岳寺までの赤穂義士引揚げコースを歩く会が行われた。前年の十二月三日に港区主催の、港区歴史フォーラムがあり、そこで当会の中島代表が講演され紹介したこともあり、さに、東京新聞にも掲載されたこともあって、総勢五十四人の多数の健脚が参加された。



コースの詳細は、中央義士会発行の「赤穂義士の引揚げ」に詳しいので省くが、おおよそのルートは次の通り。
 両国橋—万年橋—永代橋—越前堀児童公園—聖路加タワー（ここで昼食）—浅野家上屋敷跡—



両国を歩いています—歩き初めなので元気

当日は好天に恵まれ、歩くには最適の日となった。JR両国駅に九時十五分に集合、挨拶と注意事項の説明の後、九時半に出発。四十七士の討入りの最終出発地である、吉良邸裏門横の前原米店跡で、人数を半分ずつ、表門隊と裏門隊に分けた。表門隊はそこから表門へ向かい、裏門隊は裏門から吉良邸に入り、現在の松坂町公園で落ち合う趣向となった。
 吉良邸跡で中島代表の討入り時の様子の説明があり、いよいよ引揚げコースに出発。



旧東海道を歩いています—そろそろ疲れが・・・

築地本願寺—汐留橋—旧新橋停車場跡—日本テレビ前—金杉橋—御田八幡宮—泉岳寺—細川家下屋敷跡
 討入り後、赤穂義士は、回向院で上杉家からの追っ手を待つ予定だったが、現れないため両国橋の東詰で休息。その後隅田川の東岸を歩き、永代橋を渡り、自分たちが住んでいた、鉄砲洲の上屋敷を見て通る。途中、新橋辺で、大目付仙石伯耆守に自訴のため、吉田忠左衛門と富森助右衛門が別れ、それ以外の四十五名は、東海道から、泉岳寺を目指した。
 なお、討入り前後の四十七士の様子や、引揚げ途中の四十七士については、堀部安兵衛の従弟佐藤條右衛門が書き残した「佐藤條右衛門覚書」(『赤穂義士討入り従軍記』)として中央義士会発行)に書かれているので、より生々しい様子を知りたい方は、そちらをお読み下さい。



泉岳寺にて一全員集合

現代の我々もほぼ史実に近いルートを通る。隅田川の東岸を行き、永代橋を渡って、築地へ向かう。浅野家上屋敷跡近くの、聖路加タワー周辺で昼食を取る。この後、築地本願寺にある間新六の墓に詣で、汐留シオサイトの旧新橋停車場前から日本テレビ前を通り、浜松町の手前で、旧東海道（現国道十五号線）に出る。その後、一路泉岳寺を目指して進む。途中金杉橋で休憩し、全員無事に泉岳寺に到着。浅野内匠頭と赤穂義士の墓に詣でた後、通常は入れない細川家下屋敷跡の、大石内蔵助ら十七名の切腹地を見学した。ここは、切腹位置が特定できている唯一の場所で、昭和三十三年に中央義士会が整備し、現在は東京都史蹟に指定されている。

また、この引揚げコースを歩く前の、一月二十四日に有志により、細川家下屋敷跡の切腹地の清掃を行った。この清掃は、昨年から行いはじめ、今後も定例にしていく予定である。切腹地の廻りは巨木が多数生い茂っているため、枯れ葉が大量に降り積もっている。また、笹が周囲より入り込み、広がる傾向にあったため、これらも刈り取った。



旧細川家下屋敷跡の切腹地一切腹位置の説明中

約十二Kmの引揚げコースを参加者一人も欠けることなく完歩した。両国を九時半に出発し、途中で史蹟の説明やトイレ休憩を取り、昼食をはさんで泉岳寺には午後四時十五分に到着した。都内では休日とあって、交通量も少なく予定通りの時間で歩ききることができた。



清掃完了一手前の石が切腹場所
写真を撮っている人物も清掃に参加しました



切腹地の清掃中—大量の落ち葉

富士市忠臣蔵勉強会
第一回報告
中央義士会会員 風当 一朗

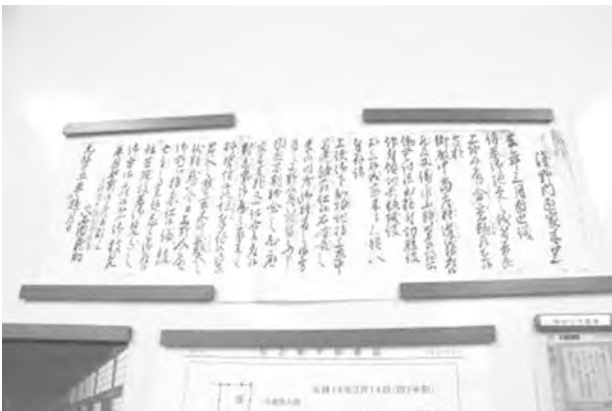


中央義士会 中島理事長の講義中

平成二十七年一月三十一日(土)、富士市青葉台まちづくりセンターに富士支部会員十九名が集まり、中央義士会中島理事長をお招きして「富士市忠臣蔵勉強会」第一回が開催されました。

第一部、第二部の二部構成で、中島理事長の元禄事件のきっかけの話しに、引きつけられました。

第一部では、松之廊下の刃傷沙汰と討入り口上書を主体とお話してました。



近松勘六筆討入り口上書

松之廊下で、浅野内匠頭が刃傷に及んだのは、吉良上野介の悪口がきっかけでした。「殿中において、内匠頭に聞く耳をもたず」とか「大言して長矩をそしる」などの悪口は、一級史料で裏つけられています。吉良上野介は、地元では、名君として尊敬されている様ですが、毎年大名いびりをしてきたとの記録が残されています。等々の一級史料を根拠にしたお話がすすめられました。

元禄赤穂事件に関しては、「浅野内匠家来口上」に書かれている内容が全てで、近松勘六が書いた控えの原本があるので、その内容を確認できます。口上書の本物は、幹部八名が懐に、残りのメンバーは写しを懐に討入りしています。当日は、竹に挟んで玄関先に立てかけ、また、「浅野内匠頭口上」と「頭」が記載されて現代に残されている史料は、偽物だということです。

第二部は、質疑応答でした。

(質問) 赤穂浅野家の五万石は、取り潰しにより浅野本家に引継がれたのでしょうか？

(答え) 改易後永井家、森家などに引継がれました。当時浅野本家は三十七万石でしたが、後に、三次浅野家五万石を引継いで四十二万石となり、幕末を迎えました。本家の子孫は、生前、山階鳥類研究所の理事長をしていました。私も一度お会いしたことがございました。

(質問) 討入りは私事であるのに、何故自訴をしたのでしょうか？

(答え) 討入りは、松之廊下事件の再審請求が目だった一面もあったので、大目付仙石伯耆守に自訴しましたが、幕府は大変困ったと思われまます。何故なら、赤穂義士が泉岳寺に到着したのは午前九時頃と推定されますが、午後八時頃迄泉岳寺に置かれます。慶安事件の時に、捕り手が直ぐに現れたのは大変な違いだと思います。

(質問) 松之廊下での刃傷後、浅野内匠頭は即日切腹でしたが、赤穂義士が賞賛されているのは、一年十ヶ月の間に、変化が生じたのでしょうか？

(答え) 吉良上野介の悪い面がだんだん解ってきたからではないでしょうか。隠居願いが受け入れられ、本所へ屋敷替えになったことにも頭われていると思われまます。

(質問) 討入り後、赤穂義士に切腹との処分を判断したのは誰でしょうか？

(答え) 討入り口上書を読んで將軍綱吉は、感嘆してしまつたのです。自分の家来を殺されて喜ぶというのは、おかしい話です。処分が下される迄五十日間かかったのは、綱吉が大変悩んだと思われまます。綱吉が、日光門主の公弁法親王

に伺いを立てましたが、何も返事をせずに帰ってしまいました。後に使いを出して回答を求めた処、「以って瞑すべし」と、一言だけだったと言います。綱吉としては、理屈上で赤穂義士を助けることができないかとの相談だったので、公弁法親王の心は、「切腹させた方が、彼らのためでもあり、今後のためでもある」にあったと思われます。最終的に、荻生徂徠の「公論でなく私論であったので、切腹させてやれば、お互いに名誉が保たれる」との具申を採用したと思われます。

(質問) 大石内蔵助の考え方は山鹿流ですよ?

(答え) 赤穂浅野家は、もともとは甲州流でした。山鹿素行が、赤穂浅野家にお預けとなり、途中から山鹿流が入って来たわけです。従って、両方の兵法があったと思われます。

(質問) 綱吉は、母・桂昌院が従一位の位官を賜る事になった時に、刃傷事件を起こしたので怒ったのでしょうか?

(答え) それはドラマの世界だけです。実際、従一位の位を賜ったのは、事件の翌年の元禄十五年です。できれば、小説と史実を分けて判断していただければよいと思います。

(質問) 赤穂義士の墓は埋葬後、すぐに建てられたのでしょうか?

(答え) 埋葬の一ヶ月後に墓石が建てられました。遺体がある程度朽ちてからでない、墓石が傾いてしまいます。埋葬も、墓石を建てたのも、いずれもお預けを受けた大名が、それぞれ負担で行いました。

(質問) 吉良邸で討たれた人の遺族は、赤穂義士を敵と狙うことになるのでしょうか?

(答え) 吉良上野介の実子・上杉綱憲が敵討ちをするだろうとの噂がたっていました。討入り直後十二月十六日付けである商人が書いた手紙が発見されています。「いよいよ、また大変な事件がおこるであろう」と書かれており、上杉が浅野を討つであろうと予想している人もいたわけです。この手紙は、東京大学経済学部図書館に現存しています。

仇討ちの連鎖を止めるため、明治六年に、仇討ち禁止令が発布されました。

(質問) 土葬された場所は、今の墓石のある所でしょうか?

(答え) 当時、藪であった所を切り拓いて埋葬しました。座席なので、おそらく前後に大きな穴



勉強会の様子

を掘り、二列に互い違いに埋められ、その上に墓石が御遺体とは別に、一列に並べられていると思われます。

(質問) 寺坂吉右衛門の子孫は分っているのでしょうか?

(答え) 茨城県の筑西市板橋に在るとの噂があり、現地に赴き、さんざん探しましたが発見できませんでした。いつも、そういう噂を聞きつけると、現地に行ったり、電話をかけたたりして探しますがなかなか見つかりません。

(質問) 赤穂義士の関係者が、あちこちに点在しているのは何故でしょうか?

(答え) 生き延びる為に、親戚を頼って動いたから各地に点在することになったのでしょう。

甚三郎の子孫が、滋賀県野洲市におり、二十七通の手紙が残っていると聞き、訪ねてきました。内蔵助の羽織が残っていることまで打ち明けてくれ、大部いたんだものですが、顔をうずめたいほど感激しました。当時、東京新聞に掲載され、羽織のホコリは、手許に大事に保管しています。

(質問) 上杉家は、討入り後動きをみせたのでしょうか?

(答え) 午前七時頃に、後片付けのために三十四名の家士を吉良邸に派遣しました。

第二部の質疑応答は、話が進展し、非常に面白かったのですが、オフレコの内容もあり、全てを書けないのは大変残念です。関心のある方は、是非富士市での勉強会にご参加下さい。

出席メンバーは、話の展開に魅了され、終了時間で致し方なく打ち切りとしました。次回の開催を楽しみにしているとの期待の声で一杯でした。

第15回忠臣蔵愛好会の報告

不忍池から浅草寺まで一天野弥五右衛門を中心に

荻原 栄

平成27年4月26日(日)に第15回忠臣蔵愛好会が行われました。今回は、中島代表の発案・企画で新しい忠臣蔵と題して、天野弥五右衛門に焦点を当てて、上野から浅草までの忠臣蔵関係の史蹟を巡りました。

大量の説明資料と共に昼食、お土産・忠臣蔵テープ・CD付き、20名限定で、5,000円のこれまでにない会費でしたが、急遽来られなくなった方も含めて、20名一杯の盛況でした。

当日は快晴の中、JR上野駅公園口に集合、予定通り10:30に出発。

最初は上野公園内の五条天神から不忍池弁天堂へ廻りました。弁天堂は水谷家が創建し、堀内伝右衛門が大石内蔵助らの切腹時にお参りをし、さらに細井広沢の扁額がかつて掛かっていた、忠臣蔵とは関係の深い史蹟です。

昼食を挟んで、東上野3丁目の下谷稲荷、そのすぐ裏の天野弥五右衛門の屋敷跡と現在跡地にある地護稲荷神社(弥五右衛門稲荷)、そこから唯念寺(月光院実家)、誓教寺(葛飾北斎墓)、潮田一族の墓のある祝言寺、堀部安兵衛の書いた看板が掛かっていた伊勢峰跡、長敬寺(天野弥五右衛門墓)、願龍寺(山田宗徧墓)、清光寺(長谷川一夫碑)、山鹿道場跡(積徳堂跡)を巡りました。

残念ながら長敬寺では天野弥五右衛門の墓参はできませんでした。この辺から浅草に近づくにつれ、大勢の観光客が集まり、雷門前では身動きもできないほどでした。浅草到着は16:00、雷門前の台東区の観光センターの8階の展望室で、浅草を下に見ながら解散しました。

特に、地護稲荷神社では、中島代表が事前に地元町会と話をし、今後もお付き合いを始める旨の説明がありました。天野弥五右衛門に対する地元の理解も深まることと思われます。

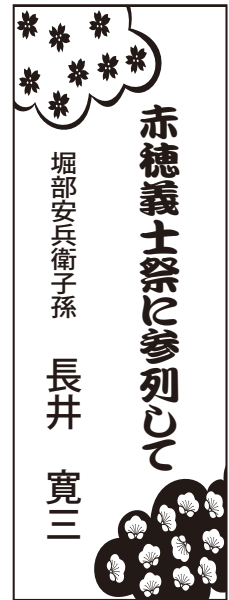
歩いた距離はせいぜい4Km程度でしたが、月一勉強会以上の大量の資料と説明内容で、全員忠臣蔵漬けの一日となりました。



地護稲荷にて



不忍池弁天堂にて



好天に恵まれた平成二十六年十二月十四日、兵庫県赤穂義士祭に参列した。
吉良邸に討入り、本懐を遂げ主君の眠る泉岳寺まで引き上げた四十七士を偲ぶ赤穂義士祭は、今年で百十一回を迎える。昨年八月八日に第一回東京あここの集いが東京のホテルニューオータニにて盛大裡に開催され、中央義士会中島理事はじめ数名のメンバーも参列し、赤穂市の関係者と大いに親睦を深める機会に恵まれた。その縁で私も赤穂義士祭に参列する幸運に恵まれた。

当日七時四五分に市役所にパレード参加者全員が集合、討入り時の装束の着装にかなりの時間を要した。市役所東広場にて歩行練習の後、徒歩にて浅野家の菩提寺である花岳寺の法要に参列、その足で大石神社の式典に参拝した。束帯の装束を纏った飯尾宮司の祝詞に続いて、市の来賓による玉串奉奠、義士の子孫遺族による焼香が厳かに執り行われた。昼食後、一時二十分より赤穂城跡大手門の太鼓橋より、大石内蔵助役に扮した俳優松平健さんの山鹿流の陣太鼓に合わせた四十七士によるパレードが出立した。

義士たち各々の持ち物は内蔵助の陣太鼓・采配はじめ太刀・槍・長巻・弓・掛矢(かけや)・鉞(まさかり)・梯子・強盗(がんどう)などであった。目抜き通りの中央外側を歩く、各々の役柄に扮した義士の堂々とした威厳のある雄姿に、沿道を埋め尽くした九万人の大観衆は、惜しみない拍手を送った。

表門隊は、露払い役の小野寺幸右衛門と神崎与五郎の後ろから、大将の大石内蔵助と間十次郎が続き、矢頭右衛七が殿(しんがり)役を飾る。裏門隊の露払い役の吉田忠左衛門の後ろから、大将の大石主税が続き、殿は寺坂吉右衛門が勤めた。私は堀部安兵衛役で裏門隊の列に加わった。腰には長刀と脇差、手に長巻、頭に鉢巻の出で立ちであつた。



堀部安兵衛に扮する筆者

行列は観覧席のある義士祭本部いきづき広場に到着、義士たちが内蔵助を馬蹄形に囲む。内蔵助の「我ら積年の思い、今無事本懐を達成した。一同勝鬨だ！」の口上に合わせて、義士全員による「エイエイオー」の三回の勝鬨に一同歓喜にむせん。大喝采を浴びて、はにかむだけの義士の面々、当時を偲ぶに十分な雰囲気のパレードであつた。義士祭で天下に知られる赤穂の午后が過ぎ去っていった。

百十一年の長きに渡り御霊を赤穂の市民に見守られてきた堀部安兵衛も、またこの上ない幸せ者である。遠い越後より駆けつけ義士祭に参列した子孫と邂逅でき、さぞかし安兵衛も嬉しかった

に違いない。自らは気も引けるが、さながら城下町を彩る元禄絵巻が繰り上げられたような一日であつた。

四十七士の吉良邸への討入りは、元禄十五年十二月十四日(一七〇三年)である。「仮名手本忠臣蔵」が上演されたのは討入り事件後、四十六年(一七〇四年)である。そして今年で百十一回目を迎えた赤穂義士祭は、事件後およそ二百年余の歳月を要して、ようやく第一回が挙行されたのである。

因みに、新発田の安兵衛武庸義士祭は、ちょうど一〇〇回目に当たる。「忠臣」の重みを赤穂市民と共に深く考えさせられた一日でもあつた。当日の映像は赤穂義士祭のYouTubeにアップロードされているので関心のある方は見ていただきたい。



勢揃いする赤穂義士



「誠忠画鑑」より引揚げ図

大石内蔵助は内匠頭の墓前で

祭文を読んだ」か②

中島康夫

中央義士会会報六十六号で、表題の疑問を抱き「易水連袂録」（史料A）と「甚三郎文書」（史料B）を提示し、一般の研究者にも問いかけた。

（史料Aと史料Bは会報六十六号参照）

結果誰一人、口を挟む方が居なかったため、小生の思う処を述べてみたい。

義士たちは、吉良邸で二時間の戦闘、三時間の引揚げ強歩、必死の思いで内匠頭墓前に辿り着いたのである。義士たちは、二年間艱難辛苦の末全てを抛ってここに（泉岳寺）辿り着いたのである。吉良の「首」は捧げたものの、内蔵助は墓前で一言もいわなかったのか。

俗書では、墓前のセリフが作家によって作られ、ドラマでは、名優が涙を流しながら、石塔に語り掛けるシーンが映る。しかし、研究者としては、一抹の疑問を持ちながら、今日まで来てしまった。

この間、幾多の偽書を眼にしなが、目を過ごして来たことにより、自身見落としがあったと思う。

平成十二年発刊の拙著「大石内蔵助最期の密使」（三五館発刊）でも、大きなミスをしたと思う。実際、近松勘六が内匠頭墓前で書かれた真書を偽書と決めつけてしまったことである。読者の方には深くお詫びする次第である。

それもこれも「易水連袂録」（史料A）（以後「易水」という）に触れて気がついたのである。

今後、この「易水」は全ての研究の対象になると思う。なにしろ、松之廊下事件より平行して元禄事件を記録していった旗本がいたのである。後日、取

材して出来上がっていった種々の「覚書」とは格が違う。しかも、義士たち何名かと、実際に知り合いになり、著者は事件の内情まで打ち明けられている。勿論「易水」の大部分は、著者が自ら取材して義士切腹後四月に完成されたのである。

この度の「泉岳寺和尚口上書之事」も元禄十五年十二月十五日の内に、九世酬山長恩に自ら会って取材している。

その記録が「易水」（史料A）である。「易水」の巻五に納められているので、斉藤茂氏が昭和四十九年に世に発表するまで、全ての研究者が知らなかったことである。

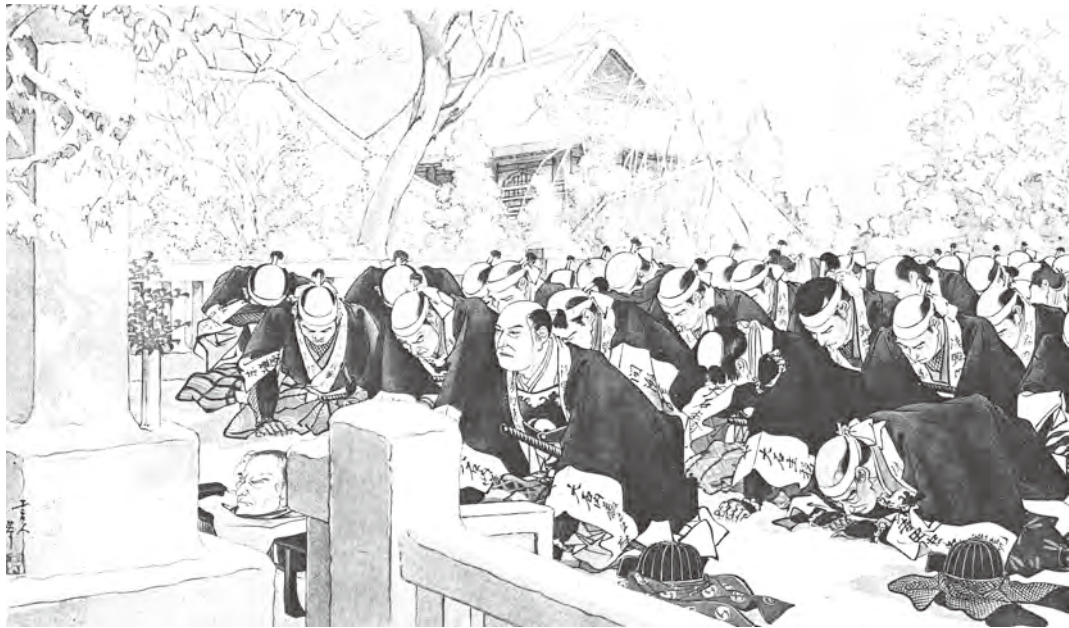
そして、世は過ぎ平成十二年に「甚三郎文書」（史料B）の内「墓前に御座候趣写申候」が活字化されるまで、この史料は真空密閉状態だったのである。

小生は（史料B）を偽書と判断違いを犯し、平成八年発刊の「元禄養老夜話」（氏家幹人著）を目にするまでは、気がつかなかったのである。

（史料B）が、「写」とあるからには、実際に内匠頭の墓前で、内蔵助に近い位置にあった義士（例えば、原惣右衛門）が書いたものを更に、後列に居た近松勘六が写したものと推定できる。それを更に、泉岳寺の門前に居た甚三郎に他の史料と一緒に渡つたと見るべきである。結果、甚三郎の国許に三百年間眠ってしまった。これらの事は、福本日南先生も、渡邊世祐先生も思いもよらなかつたであろう。

（史料B）で解くことは、

「泉岳寺へ引揚げて来た四十四名の義士たちは、



「誠忠画鑑」より墓前図

残雪にたたずみ、内匠頭の石塔二段目に吉良の首を置き、内蔵助が懐中より小脇差しを出し、石塔を内匠頭に見立て三度まで当てた事。その間に四十四名の義士が一人一人名乗って焼香をあげた事。焼香が済んだ後、内蔵助がその場で書いたものを読み上げたのである。一同の内には、泣き出す者もいたという事である。やがて、吉良の首は泉岳寺本堂へ下げられ、首の処置をたのんだ事。その後、寺側は、全員に非時（粥）をふるまった事が示されている。それらが全て終わったのが、昼の十二時頃であったという事である。

当然、この墓前の儀式は、任職はもとより、何人かの修行僧も目撃していたのである。

他史料、例えば姫路市立図書館蔵の「義士実録」などで、泉岳寺へ入ってからの義士たちの模様はわかるしほぼ一致する。

更に、(史料B)と(史料A)と付き合わせた時、同意語が多数見つけた。例えば「上野介の首に三度当」「二人一人名乗」「一同に涙」「粥を出シ」「九ツ時」「一日三秋之思」「蝟螂斧」「雪ニイ」等である。

立場の違う人間が、同じ場面に遭遇して、一方は場面を書き写し、一方はその場面を目撃した人間を取材して記事を残した。

そして、その記録がほぼ同じ内容を示している時、その場面は真実を捉えて間違いないと判断される。

ここで、一つ問題が生じる。(史料A)に「寺岡吉右衛門」の誤字が表記されている点である。これは、弁明になるが、元々、(史料A)は写本であり、

恐らく写された時期が、寛延元年以後だと判断される。従って、写した人間のどこかに人形浄瑠璃の「寺岡吉右衛門」と勘違いして筆を進めたものと判断される。この「寺岡」が小生を含め、どれ程研究者を悩ましたか計り知れない。誰しも、寛延元年以後の作文だろうと思つたに違いない。

しかし、寛延元年以後に写された文章を、やや同文の文章(史料B)が発見されたことにより(史料A)を(史料B)が証明するに至ったのである。

これらのことにより、「元禄事件」の疑わしき事案も全て虚偽であると決めつけられないことがわかる。

事実、松之廊下事件も、永青文庫の細川家の内匠頭自筆により、吉良家と浅野家の不和は、二十年前よりあったようにも思われる。「元禄事件」には、まだまだ戯曲と思われることで、それらが、真実であったという話しは、たくさん存在すると思つている。

要は研究者である。

新

蔵ちゃんTシャツ

3,240 円(税込)

070-6969-4493

販売元 赤レンガ舎

泉岳寺内匠頭墓前の全容
 元禄五年正月十五日
 此の墓に在りては
 肉を食ふは初に
 之を食ふは初に
 先 七日 七日 七日
 二月十日 七日 七日
 三月十日 七日 七日
 四月十日 七日 七日
 五月十日 七日 七日
 六月十日 七日 七日
 七月十日 七日 七日
 八月十日 七日 七日
 九月十日 七日 七日
 十月十日 七日 七日
 十一月十日 七日 七日
 十二月十日 七日 七日
 此の墓に在りては

足 七日 七日 七日
 此の墓に在りては
 肉を食ふは初に
 之を食ふは初に
 先 七日 七日 七日
 二月十日 七日 七日
 三月十日 七日 七日
 四月十日 七日 七日
 五月十日 七日 七日
 六月十日 七日 七日
 七月十日 七日 七日
 八月十日 七日 七日
 九月十日 七日 七日
 十月十日 七日 七日
 十一月十日 七日 七日
 十二月十日 七日 七日
 此の墓に在りては

此の墓に在りては
 肉を食ふは初に
 之を食ふは初に
 先 七日 七日 七日
 二月十日 七日 七日
 三月十日 七日 七日
 四月十日 七日 七日
 五月十日 七日 七日
 六月十日 七日 七日
 七月十日 七日 七日
 八月十日 七日 七日
 九月十日 七日 七日
 十月十日 七日 七日
 十一月十日 七日 七日
 十二月十日 七日 七日
 此の墓に在りては

肉を食ふは初に
 之を食ふは初に
 先 七日 七日 七日
 二月十日 七日 七日
 三月十日 七日 七日
 四月十日 七日 七日
 五月十日 七日 七日
 六月十日 七日 七日
 七月十日 七日 七日
 八月十日 七日 七日
 九月十日 七日 七日
 十月十日 七日 七日
 十一月十日 七日 七日
 十二月十日 七日 七日
 此の墓に在りては

滋賀県野洲市近松貞晴氏所有

上記に上梓したのが、世に初めて発表する「甚三郎文書」の内、内匠頭墓前の一部始終を記録した近松勘六筆跡と思われる古文書全筆である。全文の翻字は、中央義士会会報66号4ページに上載しているので、参考にされたい。この覚書は「甚三郎文書」の27通の内の一通であり、門外不出の史料である。泉岳寺に引揚げてきて、残雪の中、机もない状態で書いたと思われるので、筆字が荒れているのがわかる。

第3回忠臣蔵通3級検定試験問題

[申込方法]

・ 解答用紙の請求

検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX番号並びに、第3回3級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛てFAXまたは郵送でお送り下さい。FAXをお持ちの方は、できるだけFAXでお願い致します。また、メールでも受け付けております。折り返し解答用紙をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403

NPO法人 忠臣蔵倶楽部

TEL/FAX 03-3630-1927

メール office@chuushingura.jp

・ 受験料と振込先

3級の受験料は1000円です。振り込みで受験申込となります。

郵便局の青色の払込取扱票で下記へお振り込みください。

NPO法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038

・ 解答の送付

解答はFAXで下記へお送りください。郵送の場合は、上記のNPO法人忠臣蔵倶楽部へお送りください。

FAX 048-973-3790

・ 合否は11月になってからお知らせ致します。

[注意事項]

- ・ 合格点は80点です。24問以上正解で合格となります。
- ・ ご自宅で資料を調べて解答していただいて結構です。
- ・ 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- ・ 中央義士会の過去の出版物でも誤記がありますので充分確認の上、解答して下さい。
- ・ 受験料は締め切りの1ヶ月前までにお納め下さい。
- ・ 最終提出日は、平成27年10月末日です。

平成27年6月

第1問	俗に一富士・二鷹・三なすびと、日本の仇討ち事件をなぞらえておりますが、一富士・二鷹・三なすびとはどの事件のことをいっているのでしょうか。 ① 一富士 () ② 二鷹 () ③ 三なすび ()
第2問	吉良上野介の畳替えのいやがらせについてですが、一つは「岡本元朝日記」に示されておりますが、その他にも示されております。次のどれでしょうか。 ① 寺坂私記 ② 梶川日記 ③ 易水連袂録 ④ 赤穂義人録

第3問	赤穂城明け渡しの際、大野九郎兵衛と悶着を起こした武士は次のどなたでしょうか。 ① 貝賀弥左衛門 ② 木村岡右衛門 ③ 岡島八十右衛門 ④ 杉野十平次
第4問	「隆」の字で思い浮かぶことを書いて下さい。
第5問	大石内蔵助の母「くま」の墓はどこのお寺にあるでしょうか。 ① 聖光寺 ② 瑞光院 ③ 安養寺 ④ 遠林寺
第6問	長福寺と関係のある義士はどなたでしょうか。 ① 木村岡右衛門 ② 菅谷半之丞 ③ 吉田忠左衛門 ④ 岡野金右衛門
第7問	元禄15年12月15日、江戸を離れた寺坂吉右衛門が、最初に着いた所(人)はどこでしょうか。 ① 京都・寺井玄溪 ② 広島・浅野大学 ③ 亀山・せん ④ 京都・綿屋善右衛門
第8問	大石内蔵助の好物はどれでしょうか。 ① たくあん ② 新そば ③ 味噌汁 ④ みかん
第9問	東軍流の特徴はどれでしょうか。 ① 打込の時、声を出さない ② 打込の時、声を出す ③ 最初に突きを出す ④ 二刀流で戦う
第10問	浅野家(長重系)が代々治めてきた城でない城はどれでしょうか。 ① 真壁城 ② 笠間城 ③ 真岡城 ④ 石岡城
第11問	赤穂城明け渡しの際、赤穂城には赤ぶちの犬は何匹いたでしょうか。 ② 1匹 ③ 2匹 ④ 9匹 ⑤ 10匹
第12問	江戸から赤穂まで実際の距離は何里あったでしょうか。 ① 155里 ② 166里 ③ 177里 ④ 188里
第13問	お寺の呼び名の前に「どっこい〇〇の」がつけられているのはどのお寺でしょうか。 ① 伝正寺 ② 花岳寺 ③ 正福寺 ④ 神護寺
第14問	毛利小平太が実際に同志の前から姿を消した日はいつでしょうか。 ① 12月11日 ② 12月12日 ③ 12月13日 ④ 12月14日
第15問	討入り時に、吉良邸の玄関前に置かれた「討入り口上書」の紙はどこ産物でしょうか。 ① 程村 ② 笠間 ③ 水戸 ④ 佐原
第16問	討入り当日に行われた吉良邸での茶会の本客はどなたでしょうか。 ① 大友近江守 ② 畠山民部大輔 ③ 庄田下総守 ④ 四方庵宗徧

第17問	<p>寿昌院とはどなたのことでしょうか。</p> <p>① あぐり姫 ②三姫 ③鶴姫 ④お玉</p>
第18問	<p>泉岳寺門前は、元禄当時何という町名だったでしょうか。</p> <p>① 車町 ②高輪 ③芝 ④品川</p>
第19問	<p>吉良邸討入りの際、前原米店で四十六人が直前に口に含んだ食品は何でしょう。</p> <p>① もち ②みかん ③梅干し飴 ④なたまめ</p>
第20問	<p>甚三郎は泉岳寺門前で、ある物売りに間違われますが何でしょうか。</p> <p>①あめ売り ②みかん売り ③もち売り ④花売り</p>
第21問	<p>細川家に預けられた大石内蔵助たちは、ごはんのおかずとして、ある魚を所望しました。何の魚でしょうか。</p> <p>① さば ②あじ ③いわし ④たら</p>
第22問	<p>高田馬場の決闘で、堀部安兵衛が書いたといわれる上申書は、現在どこの施設が保管しているのでしょうか。</p> <p>① 国会図書館 ②東大史料編纂所 ③永青文庫 ④天理大学</p>
第23問	<p>元禄事件の会議の内、最も早く開催された会議はどれでしょうか。</p> <p>① 山科会議 ②船中会議 ③円山会議 ④深川会議</p>
第24問	<p>義士寺坂吉右衛門の主人はどなたでしょうか。松之廊下事件当時とします。</p> <p>① 吉田忠左衛門 ②大石内蔵助 ③原惣右衛門 ④浅野内匠頭</p>
第25問	<p>仙桂尼と関わりのある方はどなたでしょうか。</p> <p>① 戸田局 ②理玖 ③丹 ④瑤泉院</p>
第26問	<p>「浅野内匠頭家来口上」の本物は、現在どこが保管しているのでしょうか。(幹部8人が所持したもの)</p> <p>① 東京大学 ②花岳寺 ③泉岳寺 ④永青文庫</p>
第27問	<p>川崎平間村から姿を消した足軽矢野伊助はどなたの家来でしょうか。</p> <p>① 原惣右衛門 ②大石内蔵助 ③吉田忠左衛門 ④浅野内匠頭</p>
第28問	<p>討入りに際して長屋の横板に穴を開け、逃げた吉良家の家老はどなたでしょうか。</p> <p>① 左右田孫兵衛 ②松原多仲 ③大熊弥一右衛門 ④山吉新八</p>
第29問	<p>討入りに際して、吉良家の家来が長屋に穴を開け逃げたところ目撃した方がおりましたが、どなたでしょうか。名前を書いて下さい。</p>
第30問	<p>討入りの際、裏門近くでかけやで打たれ大けがをした吉良家の家臣はどなたでしょうか。名前を書いて下さい。</p>

・30問中、正解のない問題が1問含まれております。その場合、「正解無し」と解答して下さい。

中央義士会

評議員
内山晴代

板橋区在住

NPO 法人忠臣蔵倶楽部

理事
金子堅一

東京都荒川区在住

中央義士会

理事
高城和夫

東京都西国分寺在住

NPO 法人忠臣蔵倶楽部

理事
成清寛徽

千葉県浦安市在住

NPO 法人忠臣蔵倶楽部

代表代行
荻原 栄

NPO 法人のホームページは <http://www.chushingura.net/> です

NPO 法人忠臣蔵倶楽部

役員
勝田芳造



足立区在住

NPO 法人忠臣蔵倶楽部

理事
富岡 克

東京都中央区在住

NPO 法人忠臣蔵倶楽部

理事
三輪三郎

川崎市麻生区在住

(株)メディカル オフィス ベラ
医療コンサルタント 訪問看護
訪問リハビリテーション

代表取締役
武類俊哉

東京都北区在住

編集後記

NHKさん、徐々大河ドラマ「忠臣蔵」をお考えになられてもよろしいのではないのでしょうか。独参湯の効果は、昔ほどないでしょうけれど、世の中が荒んでいるので、この辺で、NHKさんも治めるといいう意味を込めて「忠臣蔵」がよいのではと思います。日本人の悪い癖で「いじめ」が無くなりません。事件の発端は全て「いじめ」です。この「いじめ」の権現様は吉良上野介です。近年のドラマは吉良を余り悪く描きませんが、実態はあんなものではないと思います。一藩の乗っ取り、人殺し、泥棒、天皇への侮辱、悪の限りを尽くしております。この悪の固まりをうまく避けて通れなかった内匠頭は可哀想な限りです。今世でもこの様なことはございますよ。今度こそ吉良を原寸大で描きたいものです。全ては、あの一言で始まったのです。「忠臣蔵」は日本人に与えられた聖書です。

編集者 中島康夫(企画・編集・検証)

荻原 栄(編集) 富岡 克(校正)

三輪三郎(校正) 勝田芳造(校正)

(株)正大印刷社 (印刷)